

学校だより第2号

令和8年5月

上越市立城西中学校

啐（そつ）とは、鳥が卵からかえるとき、殻の中で雛が鳴くこと。啄（たく）とは、親鳥が外から殻をつつくこと。両者相呼応した、逃すべからざる好機をいう。当校では、啐啄の精神から大きな成果が生まれると考え、職員玄関に掲額している。



「物言い」とビデオ判定

校長 保坂 修

現在、スポーツの世界では、より正確な判定を行うために、ビデオ映像やAI、センサー技術などが活用される場面が増えてきました。相撲における「物言い」後のビデオ判定、野球のアウト・セーフを巡るリクエスト制度、そして近年導入されたメジャーリーグのABSチャレンジ制度も、その一例です。これらの仕組みによって、行司や審判の判定が覆ることも、もはや珍しいことではありません。



一方で、「相撲や野球といった文化を大切にするのであれば、本来はビデオやAI、ロボットの力に頼るべきではない」という考え方もあります。相撲は日本の国技であり、野球はアメリカの国民的スポーツです。いずれも、人の判断を尊重し、それを受け入れることで育まれてきた、長い歴史と伝統をもつ競技です。また、もし、すべての判断を機械に委ねてしまえば、競技の持つ味わいや人間らしさが失われ、どこか淡々としたものになり、スポーツの魅力が失われてしまうかもしれません。

しかし現代は、映像やデータによって「正しさ」が誰の目にも明らかになる時代です。明らかな誤りがそのまま放置されてしまうと、行事や審判への信頼だけでなく、競技そのものへの信頼も損なわれてしまいます。ビデオ判定やリクエスト制度、ABSチャレンジは、そうした信頼を守るための、必要最小限の仕組みだと捉えています。

こうした考え方は、教育に通じるものがあります。「どっちが勝ったか」「アウトかセーフか」といった明確で単純な問題は、AIなどの最新技術の活用が有効です。しかし、実社会における複雑な問題に対しては、すべて機械や技術に委ねるのではなく、個々がそれぞれの意見を持ち寄り、多様な考えを尊重し合い、話し合いながら最適解を見いだしていく。その姿勢こそが、これからの共生社会において、ますます重要になっていくのではないかと考えます。

生徒会入会式 オリエンテーション



4月14日(火)、新1年生を迎えて、生徒会入会式・オリエンテーションを行いました。
1年生に向けて、リーダーによる委員会や部活動の紹介がありました。生徒全員が城西中学校生徒会の一員として活躍することを期待しています。



仲間づくり活動

1年生



2・3年生(1年生は5月18日に実施)は仲間づくり遠足として国立妙高青少年自然の家に出かけ、制作活動や野外調理、オリエンティングや各学年級長会の工夫を凝らしたレクリエーションなど様々な活動を行いました。1年生はすごろくやカードを使ったゲームで新しい仲間と楽しい時間を過ごしました。どの学年も笑顔が多く見られました。

2年生



6月の予定

1日(月)オープンスクール(～5日)

3日(水)生徒朝会

5日(金)激励会

11日(木)通知ファイル配付(予定)

18日(木)耳鼻科検診

※9日(火)～20日(土)にかけて各種地区大会が行われます



23日(火)3年高校説明会①

24日(水)3年命きずな講座

25日(木)3年高校説明会②

26日(金)・27日(土)通信陸上大会

スクールカウンセラー6月の訪問日・・・4日(木)・11日(木)・18日(木)・25日(木)